

飯能の町は土蔵がいっぱい!

—明治 16 年の建物調べから—

飯能市立博物館 学芸職員 尾崎 泰弘

10 月の「今月の一品」で紹介した明治 16(1883)年 2 月作成の「〔徴発物件調〕」(双木利夫家文書 No.326)には、当時の飯能町の建物がほぼすべて書き上げられています。今回はこれと『飯能市史』資料編 X(産業) の 264 頁に掲載されている明治 14(1881)年の商家の商高の書上(「地方税営業人商金高御届」)と明治 15-17(1882-1884)年頃の様子を記した「高麗郡町並略図」を突き合わせ、わかることをご紹介しますと思います。

明治16年飯能町の土蔵造りの建物

	土蔵		見世蔵		棟数
	棟数	割合	棟数	割合	
原町	17	12.7%	1	0.7%	134
一丁目	45	23.0%	6	3.1%	196
二丁目	18	12.4%	0	0.0%	145
三丁目	26	19.5%	1	0.8%	133
川原町	7	6.7%	0	0.0%	104
宮本町	6	6.4%	0	0.0%	94
その他	6	5.8%	0	0.0%	104
合 計	125	13.7%	8	0.9%	910

※「〔徴発物件調〕」(双木利夫家No.326)より作成

画像 1 飯能町土蔵と所在地

これには全部で 910 棟の建物が記されていますが、このうち見世蔵は 8 棟(0.9%)しかなく、一丁目に 6 棟(新井清平、篠原半助、小能俊三、金子忠五郎 2 棟、奈良才吉)、三丁目に 1 棟(田口勝五郎)、原町に 1 棟(升屋喜兵衛)です。また土蔵はなんと 125 棟もあり、全棟数の 13.7%にあたります。このうち一丁目(下町)に 45 棟(36%)、三丁目(上町)に 26 棟(20.8%)、二丁目(中町)に 18 棟(14.4%)と 7 割が現在の大通りとその周辺にあったことがわかります。6 棟に 1 棟が土蔵というわけですから、さぞかし飯能の町には土蔵が目立ったことでしょう。

次に商金高の高い商家がどこにあったのかをみてみます。明治 14 年の商金高が 5,000 円を超えている商店は 13 軒あります。飯能・久下分・真能寺 3 ヶ村で 176 軒の商家が書き上げられているので、その比率は 7.4%、まさに「大店」です。第 1 位は穀物・桑・糸繭を扱っていた新井清平(下町)で、15,180 円、続いて穀物商の小山八郎平(上町)が 12,530 円、3 位が穀物・炭を商っていた篠原半助(下町)で 12,335 円になります。13 軒の内訳を見てみると、下町(一丁目)が 6 軒と約半分を占め、原町が 4 軒、上町(三丁目)が 2 軒、中町(二丁目)が 1 軒となっています。

見世蔵や土蔵を建てるには多くの資金が必要ですし、実際商金高を見てみると上位には下町の商家が多くを占めることから、飯能が町制を敷いた明治 15 年頃、飯能の「町」では下町(一丁目)が栄えていたことがうかがえます。

ちなみにこの時期洋糸や唐糸を扱っている商家が商金高 5,000 円以上に 3 軒入っていますが、幕末の開港後こういった輸入綿糸を使用した綿布、絹・綿交織の生産が盛んとなり、入間地方では元加治村周辺に「双子織」「京棧留」(綿織物)や「博多結城」(絹綿交織物)の生産が盛んになっていったことと関係があるものと思われます。

明治14年飯能・久下分・真能寺村の商金高5000円以上の商家

順位	氏名	商 品	業 態	町	村	金額	等級
1	新井 清平	穀物・桑・糸繭	卸売	一丁目	飯能	15,180.00	1
2	小山 八郎平	穀物	卸売	三丁目	久下分	12,530.00	1
3	篠原 半助	穀物・炭	卸売	一丁目	飯能	12,335.00	1
4	小林 源左衛門	洋糸	卸売	三丁目	久下分	11,250.00	1
5	升屋 喜平	太物	卸売	原町	真能寺	11,214.00	1
6	日出間 桑蔵	唐糸	小売	原町	真能寺	11,100.00	1
7	小能 正三	洋糸	小売	一丁目	飯能	11,060.50	1
8	武久 善蔵	醤油・水油	小売	一丁目	飯能	8,535.00	2
9	小能 政吉	織物	卸売	一丁目	飯能	8,250.00	2
10	粕谷平四郎	製茶・傘・下駄	卸売	二丁目	飯能	6,800.00	3
11	大木 善太郎	織物	卸売	一丁目	久下分	6,300.00	2
12	島田 丈吉	穀物・油	小売	原町	真能寺	5,180.00	2
13	水岡 長治郎	穀物・醤油	小売	原町	真能寺	5,128.00	2

画像 2 明治 14 年飯能町の商金高

【参考文献】

飯能市史編集委員会『飯能市史』(資料編X)産業 昭和 60(1985)年 3 月

埼玉県『新編埼玉県史』通史編 5 近代 1 昭和 63(1988)年 3 月 1460 頁

岡三夫ほか編『日本経済史—近世から近代へ—』平成 3(1991)年 4 月 247 頁

飯能市郷土館特別展図録『機屋の挑戦—明治から昭和へ、小槻工場物語—』平成 26(2014)年 10 月